

## 仕 様 書

### 1 業務の名称

清華亭における展示実施設計および展示物・サイン等整備業務

### 2 委託期間

契約日から令和6年3月29日（金）まで

（展示物およびサインの設置は、令和5年12月12日から3月27日までの期間内で委託者が指定した日とする。）

### 3 業務内容

#### (1) 新規展示物およびサインの実実施設計（①②は英語併記）

①屋外：臨時表示（3枚）の実実施設計（落雪注意・転倒注意・散策案内）

②和室：注意プレート（2枚）の実実施設計（障子および床の間への接触禁止）

③工事記録：説明パネル+イーゼルスタンドの実実施設計

パネルに使用する写真等は札幌市より提供するので、工事監理業者に工事概要を聞き取りながら、工事状況を情報発信する説明パネルを作成する。

#### (2) 展示物設計図書を作成

下記の設計図書を作成し、電子データの形式は、word、Excel、PDFのいずれかとし、CD-R等により提出するものとする。

ア 設計図書

イ 特記仕様書

#### (3) 展示物・サイン等整備業務

上記（1）、（2）の実実施設計成果品および札幌市が提示した展示パネルおよびサイン製作リスト及び作成データ（AIデータ）に従い、展示物・サインを作成し、設置する。

製作数、仕様および設置予定箇所は別添資料のとおりとする。

設置位置については、引き続き使用する既存展示物を含め、「清華亭展示物ほか計画検討及び実施設計業務展示物およびサインの計画検討」の業務成果方針を基本に、委託者の承認を得たうえで決定すること。

なお、製作する前には寸法・設置方法について委託者の承認を得ること。

#### (4) その他留意事項

当該施設は、文化財施設であることを踏まえ、施設内の全体的な調和を乱すことの無いよう作成、設置に関し十分に留意すること。

委託者の他、清華亭の耐震改修工事の工事監理者・施工者及び清華亭における清華亭展示物ほか計画検討及び実施設計業務の受注者と十分に相互調整を行うこと。

部品類の取付け・固定においては、建物本体が市指定有形文化財であることを十分留意した最適な方法によるものとする。

#### 4 提出品

次の書類等を作成、提出すること。

(1) 完了届 1部

(2) 完成しゅん工図書 1部

(3) 工程写真 1部

(4) その他札幌市が必要と認めるもの

電子データの形式は、word、Excel、PDFのいずれかとし、CD-R等により提出するものとする。(2)については、AI形式のデータについても提出すること。

#### 5 成果品に係る著作権等の取扱い

(1) 受託者は、発注者に対し、本業務の成果物に関連する著作権（著作権法（昭和45年法律第48号）第27条及び第28条に規定する権利を含む。）を譲渡するものとする。

(2) 受託者は、本著作物に関する著作権者人格権を、発注者又は発注者が指定する第三者に対して行使しないものとする。また、本著作物の著作権者が受託者以外のものであるときは、受託者は発注者又は発注者が指定する第三者に対して、本著作物に関する著作権者人格権を行使されないよう適正に措置を講ずるものとする。

(3) 受託者は、発注者に対し、受託者が本著作物を創作したこと又は適正な著作権の譲渡を受けていること及び第三者の著作権、著作権者人格権及びその他特許権、商標権を含むいかなる知的財産権を侵害するものではないことを保証する。

(4) 本著作物の利用について、第三者から権利侵害の訴えその他の紛争が生じたときは、受託者は、自己の費用及び責任においてこれを解決するものとし、かつ発注者に何らかの損害を与えたときは、その損害を賠償するものとする。

#### 6 その他

(1) 業務上必要な資料は札幌市から貸与するものとする。ただし、貸与する資料については取扱いに十分注意し、破損・紛失などの重大な過失が生じた場合は、受託者がその責を追うものとする。

(2) 受託者は、業務の遂行上知り得た秘密を外部に漏洩してはならない。

(3) 受託者は、委託者と十分協議を行い、必要な準備、資料の作成、事前の打合せ等、事業の実施を行うこと。なお、本市の求めに応じて打合せ等を確実にを行うため、専任の担当者を置くなどして、業務が遅滞することのないようにすること。

(4) 受託者は、業務の進捗状況を常に検証するとともに、その状況について委託者に報告すること。

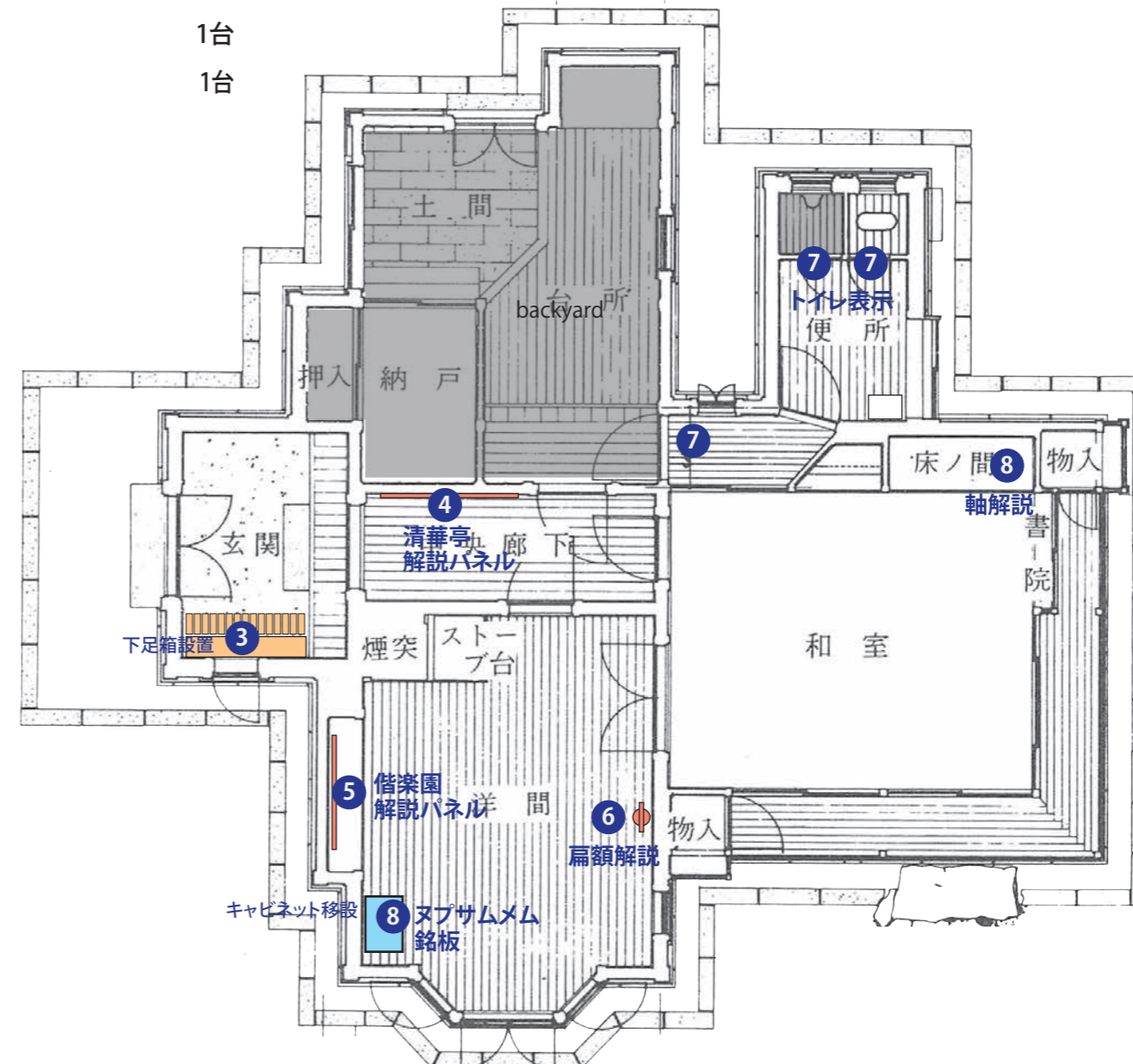
(5) 業務に疑義が生じた場合は、委託者と協議し、指示を受けること。また、委託者から

の指示があった場合、履行期間完了前においても、必要な資料等を提出すること。

- (6) 本業務に関する事故等は、委託者に速やかに報告するとともに受託者の責任により適正に処理すること。また、事故等により生じた損害一切は受託者の負担とする。
- (7) 当業務の成果品の保証期間は、引き渡し完了の日から1年間とする。ただし、基本的な設計・施工及び据付け・施工に関わる不具合・故障等が発生した場合は、この限りではない。
- (8) 搬入時及び設置時に文化財建造物を破損しないようにすること。搬入時における損傷（建物への損傷を含む）は受注者の負担により修復すること。
- (9) 整備する物品については、揮発性有機化合物を含有しないこと、または、使用していないことを原則とする。揮発性有機化合物を含有または使用している場合は、放散させないか、放散をできる限り少なくなるように配慮された製品（納入後、室内空気濃度が厚生労働省指針値を上回る揮発性有機化合物を放散しないこと）であること。
- (10) 納入前に、物品の「SDS（安全データシート）」及び安全性を確認できる書類（「揮発性有機化合物（VOC）測定試験報告書」等の証明書等、揮発性有機化合物を含有している場合のみ）を納品前に提出し担当者の承認を得ること。
- (11) その他、本仕様書に記載されていない事項については、委託者と協議し、指示を受けること。

## ■展示造作物

1	入口誘導表示	w300×h300 アルミ複合板、出力シート貼	2枚
2	喫煙・火気使用・危険物持ち込み禁止表示	w450×h600(面板),H1350 SUS自立看板、コンクリベース、面板アルミ複合板、出力シート貼	1基
3	①下足箱	w1800×h900×d400 木造作、棚付、古式塗装仕上	1台
	②足場すのこ台	w1800×d555 木造作、古式塗装	1台
	③受付表示	w250×h250×d350 アクリル3t加工、出力シート貼	1基
	④記念スタンプ表示	w200×h250 アクリル3t加工+出力シート	1基
	⑤パンフレットスタンド	A4パンフレット 2列×2段 (既製品)	1台
4	「清華亭」解説パネル	w2400×h1200×ア30 木軸パネル出力シート貼 吊金物(ワイヤー・レール)	1基
5	「偕楽園」解説パネル	w1800×h1200×ア30 木軸パネル出力シート貼 吊金物(ワイヤー・レール)	1基
6	「清華亭」扁額解説パネル	w300×h300(面板),h1023 既成スタンドサイン 面板製作	1基
7	案内サイン(トイレピクト)	w150×h150(面板),h1023 既成スタンドサイン(1)	1式
8	①(床の間)軸解説	w200×h300 アクリル曲げ加工、出力シート貼	1台
	②「ヌブサムメム」銘板	w90×h65 アクリル曲げ加工、出力シート貼	1台

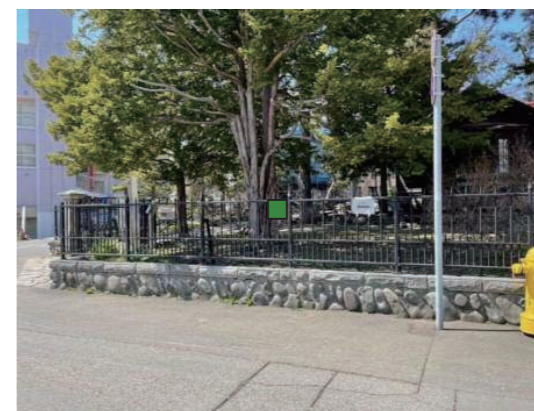


1 入口誘導表示 (2枚)

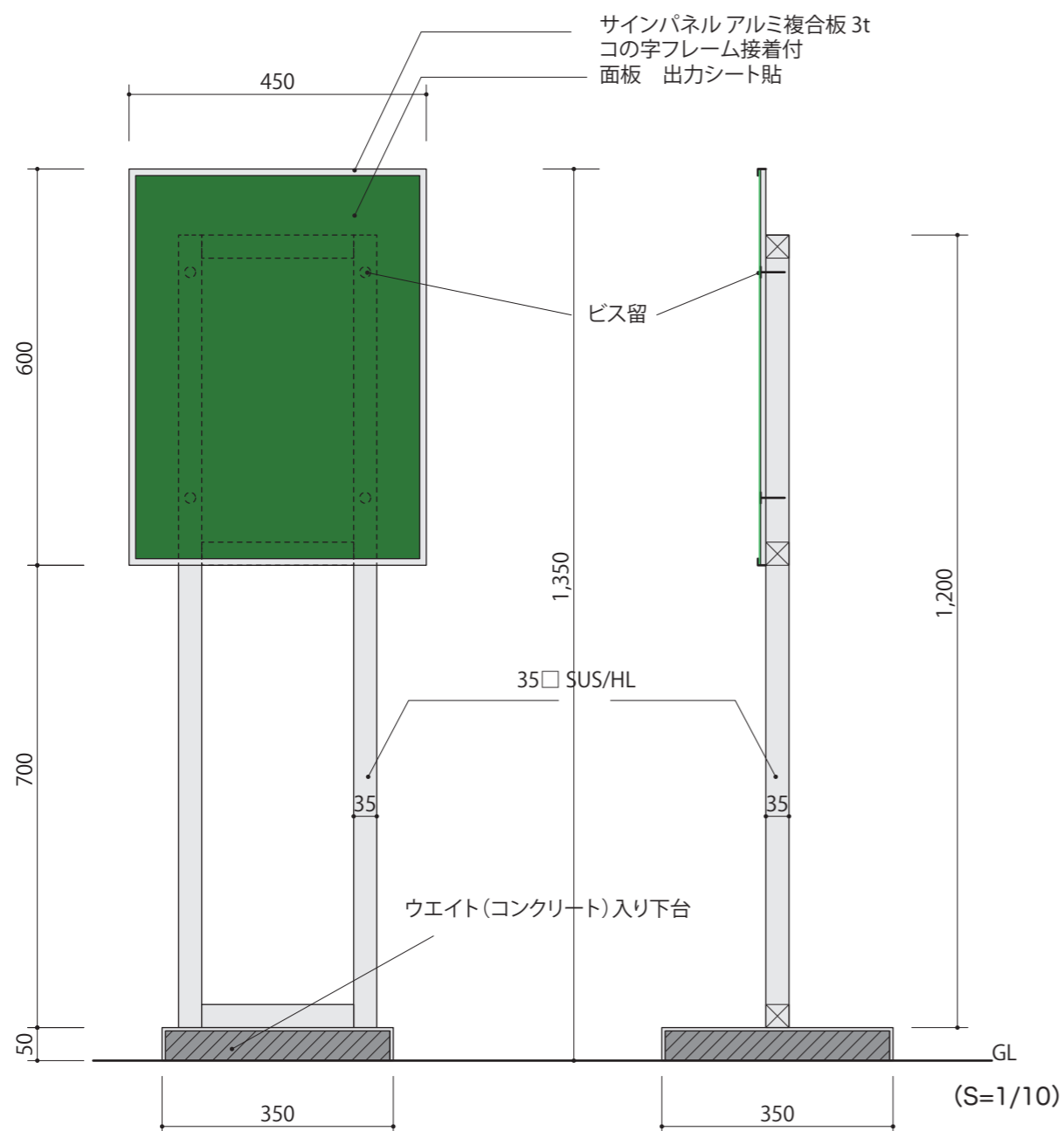


アルミ複合板 3t 出力シート貼  
(小口巻き込み)

敷地柵に設置(ワイヤー留) (2箇所)



2 喫煙・火気使用・危険物持ち込み禁止表示



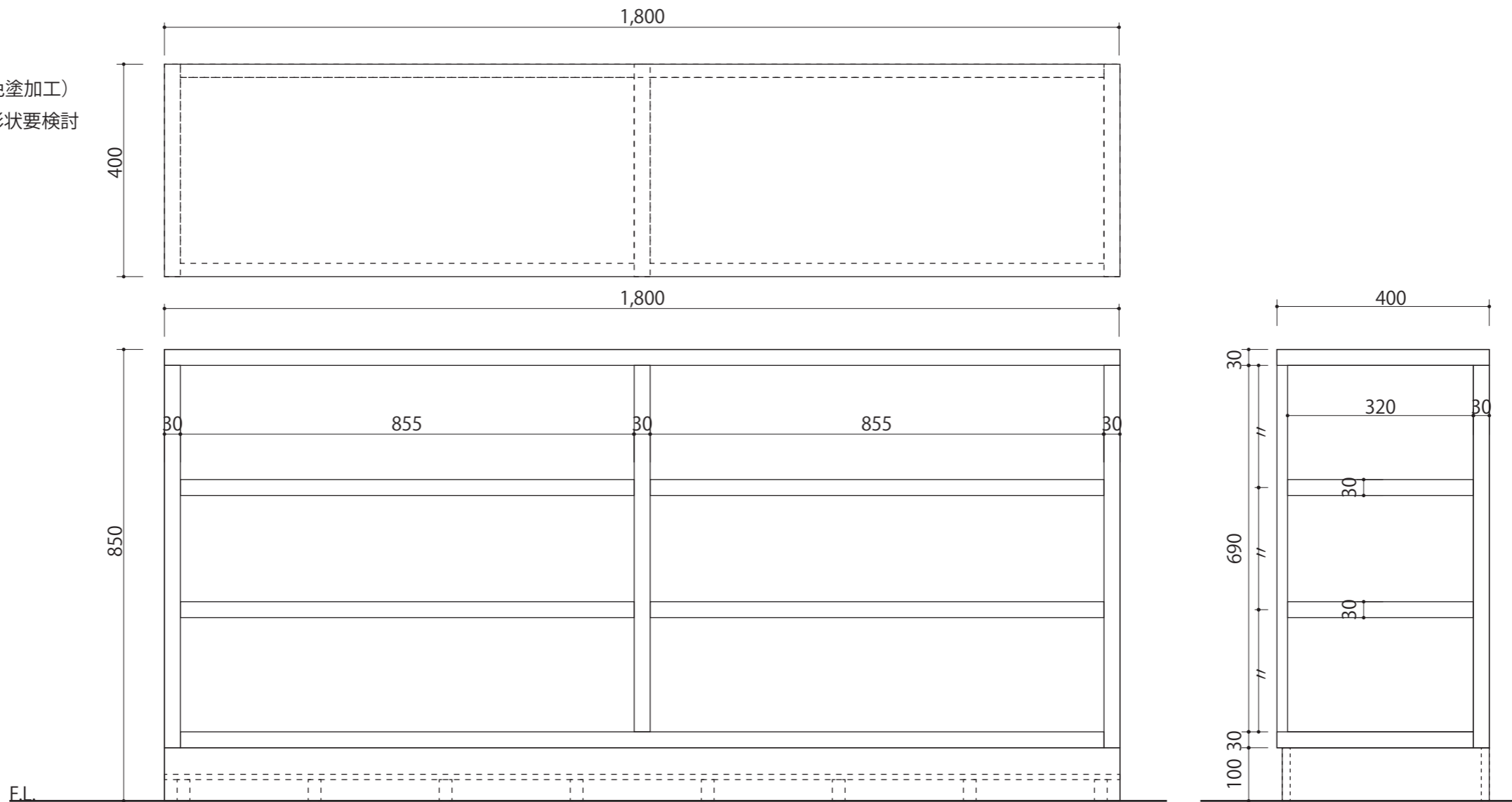
3 各種受付表示 (玄関)

① 下足箱

w1800×d400×h850

木軸組 ラッカー塗仕上げ(古色塗加工)

※収まり詳細については、現場形状要検討

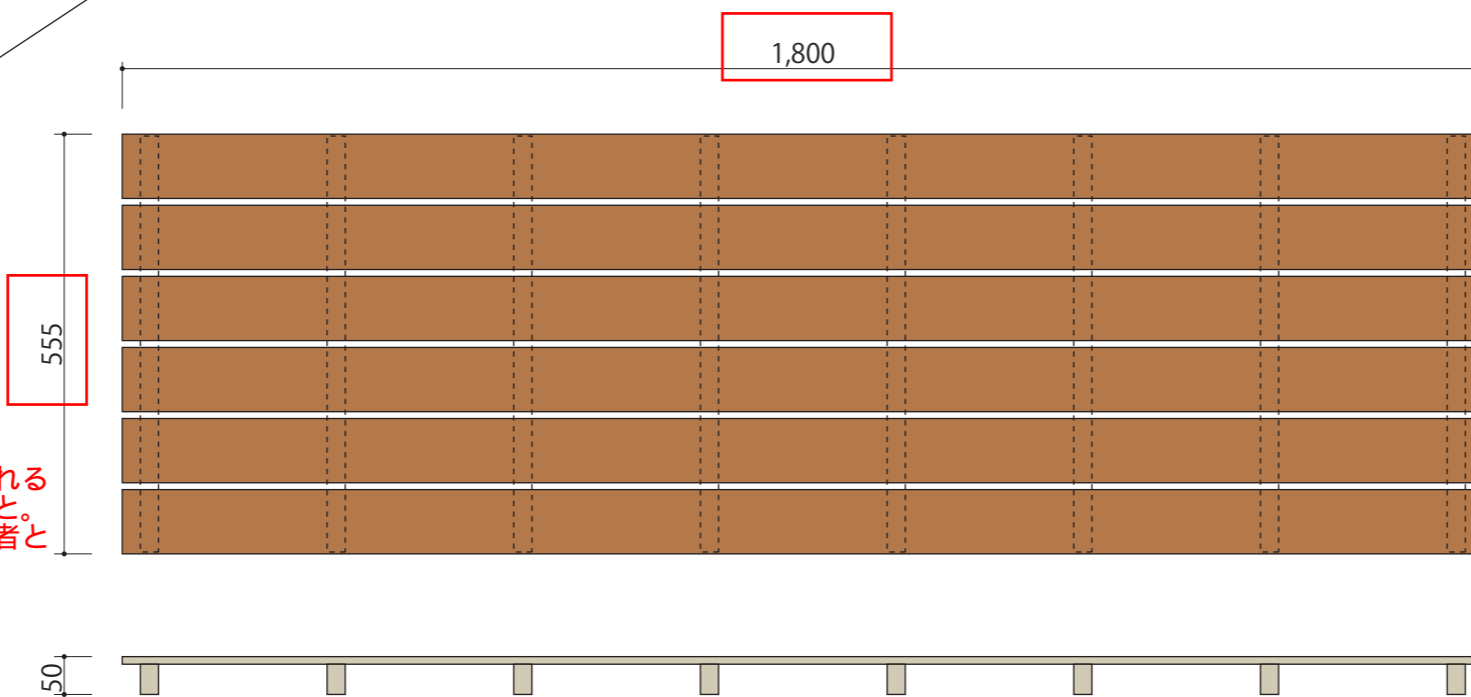


② 足場(すのこ敷)

新規作成、もしくは既製品 (古色塗加工)

(w1800×d555×h50 程度)

すのこのサイズは、今回の玄関工事で追加される石段との隙間が大きく生じない寸法とすること。このため、すのこの寸法は現地確認をし、委託者と協議のうえ確定させること



Client

札幌市

Project

清華亭

Title

3. 玄関  
下足箱・足場

Scale (A3)

1/10

Date

2023.5.10

Director

Number

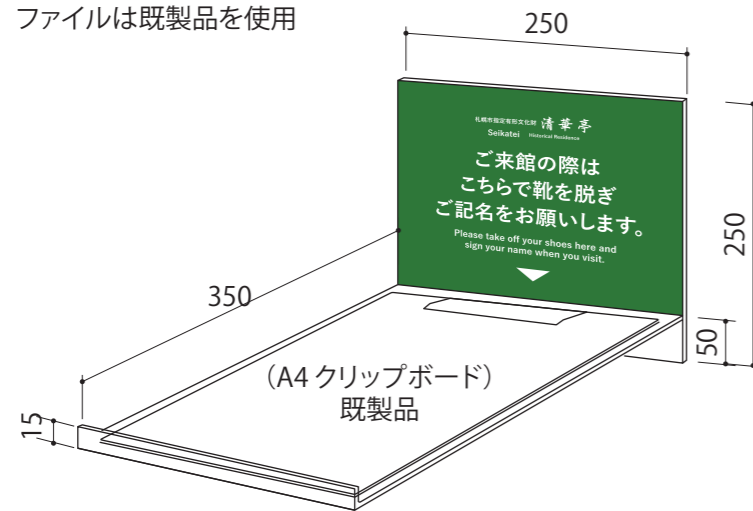
3

### 3 各種受付表示 (玄関)

#### 下足箱上 各種表示類

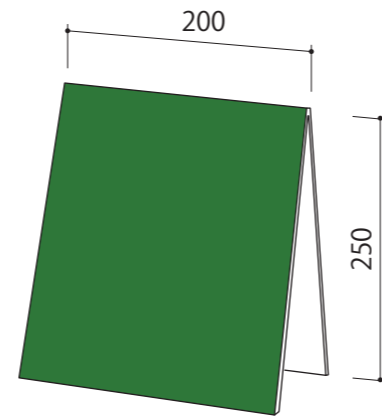
##### ① 受付記名台

アクリル3t 加工  
表示部出力シート貼  
ファイルは既製品を使用



##### ② 記念スタンプ(表示)

アクリル3t 曲げ加工  
表示部出力シート貼



(スタンプ台、下敷き等は別途用意)

##### ③ パンフレットスタンド

既製品(A4 2列×2段) 1台  
(清華亭パンフレット日・英・繁・簡・韓・露6種)



Project

清華亭

Title

3. 玄関  
各種サインほか

Scale (A3)

40%

Date

2023.5.10

Director

Number

4

4 清華亭解説パネル

木軸組アルミ複合版パネル 出力シート貼り仕上げ w2400×h1200×ア35 上部よりワイヤー吊り下げ取り付け掲出(ピクチャーレール)

パネルの取付け・固定においては、建物本体が市指定有形文化財であることを十分留意した最適な方法によるものとする

貴重な開拓使建築の遺構である「清華亭」。

清華亭は1880(明治13)年、開拓使の貴賓接待所として建てられました。明治天皇が1881(明治14)年札幌行幸の際に御休憩された由緒ある建物であり、明治初期における和洋折衷様式を巧みに取り入れた、我が国では類例の少ない開拓使建築の遺構として貴重であることなどから、1961(昭和36)年6月7日札幌市の「有形文化財」に指定されました。

Seikeitei, a valuable architectural remnant built by the Hokkaido Development Commission Seikeitei was built in 1880 as a residence for distinguished guests of the Hokkaido Development Commission. The main house was designated as a Tangible Cultural Property by the City of Sapporo on June 7, 1961, because it is a historic building where Emperor Meiji stayed during his visit to Sapporo in 1881, and it is a valuable architectural remnant of the Hokkaido Development Commission that is rarely found in Japan, skillfully incorporating both Japanese and Western styles in the early Meiji era (1868-1912).

清華亭の移り変わり

アイヌ語でヌサムメ(野の傍の泉地)と呼ばれたこの地は、サクシュコトニ川の清流が泉となってわき出し、地形はゆるやかな起伏のある風光明媚なところでした。借家園付近にはアイヌの人々のコタン(集落)がありましたが、明治15年ごろまでに移転を余儀なくされました。

1871(明治4)年 札幌初の公園「借家園」がつけられた以降、博物館、植物園、花室(温室)及び製物場がつけられた。



1878(明治11)年 船の人工孵化試験を行った。



1879(明治12)年 ベーラーが借家園に庭園をつくった。



1880(明治13)年 借家園内に清華亭がつけられ、開拓使官・黒田清隆により「水本清華亭」と名づけられた。



1881(明治14)年 明治天皇行幸、清華亭は御休憩所となる。



1882(明治15)年 開拓使が廃止され、札幌館が設置された。



1886(明治19)年 札幌館が廃止され、北海道庁が設置された。このころから中島道園地が整備され、借家園を訪れる人は少なくなった。



1897(明治30)年 清華亭は、民間に払い下げられた。



大正年間 清華亭は「私有汚損のまま個人住宅」として使用された。



1918(大正7)年 開道50年記念北海道博覧会が開催される。このころから借家園付近に多くの個人住宅が建てられた。



1927(昭和2)年 郷土史家・河野常吉等を中心として「清華亭保存会」がつけられ保存運動が始まる。



1929(昭和4)年 清華亭保存会が、清華亭の敷地の寄付を受ける。



1930(昭和5)年 清華亭50年祭を行う。河野常吉死去。



1933(昭和8)年 清華亭保存会は、清華亭の一切を札幌市に寄付。同年、明治天皇聖蹟に指定される。



1943(昭和18)年 金属回収の国策に沿い、門扉等の金属類を撤去供出した。



1948(昭和23)年 清華亭の史跡指定が解除された。



1950(昭和25)年 借家園内に「井瀬神社」が祀られる。



1951(昭和26)年 このころから借家園内の水脈が枯れ、河川が消滅した。



1959(昭和34)年 札幌市文化財保護条例が制定される。



1960(昭和35)年 庭園を清華亭遊園地として開放。



1961(昭和36)年 清華亭は演武場(時計台)及び豊平館とともに、札幌市有形文化財に指定される。



1962(昭和37)年 清華亭内に図書室が設けられる。



1977(昭和52)年 清華亭修復工事基本調査を行う。



1978(昭和53)年 復元工事を行い、ほぼ創建時の姿に復した。総事業費は3,360万円を要した。



1980(昭和55)年 清華亭創建百年記念式典を行う。



和洋折衷様式

この建物は和洋折衷様式で面積は洋室部分のほうが広く、外観は洋風に統一されています。内部は洋室に床の間のような欄を取りつけ、天井中心飾に精緻な模様を採用するなど和風の意匠も見られます。和洋両方を直接に連結し、和座敷に洋風の障子などを組み合わせるなど特異な手法が用いられており、旧永山武四郎邸とともに洋風導入過程上での、一つの試行形式として興味深いものがあります。

Blending of Japanese and Western styles The building is a blend of Japanese and Western styles, with the Western-style room covering the larger area, and a predominantly Western style exterior. Inside, the Western-style room has an alcove like shoji, and the ceiling is decorated with Chinese butterfly-patterned panels. Such a direct mixture of Japanese and Western elements in the room and the use of a Western-style door for a Japanese-style tatami room make this an interesting experiment in the process of introducing the Western style, as also seen in the former Residence of Nagayama Takahito.



建物の概要
○洋室/木造平屋建
○洋室/和室(南東)
○和室/和室(北西)
○外廊/下見和室
○洋室/約32.2坪(約123.1㎡)
Building outline
○Western-style room/wooden flat-roofed building
○Western-style room/and room (SE)
○Japanese room/and room (NW)
○Outer corridor/underneath Japanese room
○Western room/approximately 32.2 tatami mats (approximately 123.1 square meters)

出窓・玄関

洋室の南面にあるベイ・ウィンドウ(出窓)。これは単に開口部であるだけでなく、外観の装飾となり、室内に重厚な感じを与える効果があります。またこの部分はすべてセメントの床を使用しています。このようなベイ・ウィンドウの採用は、旧永山武四郎邸にも見られ、明治初期の建築では珍しいことでした。また、西面に突出する玄関部は切妻屋根で、妻飾りと十字形と開拓使の記章である「五稜星」がつけられています。

Bay window/entrance Bay window on the south facade of a Western-style room. This is not only an opening, but also serves as an exterior decoration and gives a stately feeling to the interior. The bay window is made entirely of cement ashlar masonry. The use of bay windows is also seen in the former Residence of Nagayama Takahito, and was new in the architecture of the early Meiji era (1868-1912). The gable roof of the entrance projecting to the west is decorated with a cross and a five-pointed star, the insignia of the Hokkaido Development Commission.



和室

清華亭は外観、構造とも洋風ですが、付け書院、床および欄をもつ和室があります。これは清華亭の持つ使用目的上の必要から生じたようですが、開拓期の人々の出身地での住居や生活への熱い思いが込められたことと思われる。このような和室をもつ建築は、清華亭をはじめとし、旧永山武四郎邸や市内に残る明治期の民家にも見られます。本道には、本州には見られない美しい自然条件がありますが、建築伝統の重圧はなく、積極的に洋風建築の様式と技術を取り入れ、本道独自の洋風建築文化を築き上げました。

Japanese-style room Seikeitei is Western-style in appearance and structure, but has a Japanese-style room with an attached alcove-style sliding room, floor, and shelves. This seems to have arisen out of necessity for the intended use of Seikeitei, but it is also considered to have been rooted in the governor's passionate feelings about the houses and lives they left behind in their places of origin. Architectural structures with such Japanese-style rooms can often be seen in Seikeitei, the former Residence of Nagayama Takahito, and other Meiji-era private houses remaining in the city. Although the natural conditions in Hokkaido are much harsher than in Honshu (mainland of Japan), Hokkaido has had an architectural tradition and has actively adopted Western architectural styles and techniques, creating a Western architectural culture unique to the province.



天井中心飾(メダリオン)

洋室の天井中央には、シンデリア基部を中心として洋噴で天井中心飾(メダリオン)を作り、その内部に「精緻」の彫刻を施しています。このような洋噴彫刻は、柱上のように傾く壁の表面を直接盛り付けにくいもので、硬化までの時間が短いため、早く作業をしなければならず、高度な技術が要求されます。精緻な模様は和風であり、洋室にこのような和風模様の採用は、洋風建築における和風要素の取り入れた事例として注目されています。和風天井中心飾は、清華亭の他に豊平館、旧永山武四郎邸にも見ることができ、おそらく同一人または職人グループの手によるものと考えられています。豊平館の天井中心飾は着色されており深い彫影に富んだ迫力のあるもので、旧永山武四郎邸には紅藍模様のものがあります。明治初期においてこのような高度な技術が必要とする和風中心飾が作られたことは特筆すべきことです。

Ceiling centerpiece (medallion) In the center of the ceiling of the Western-style room, a central medallion is placed around the base of the chandelier, with carved relief work in the shape of a lychee (Chinese butterfly) towards the inside. This lychee sculpture is directly casted with plaster kneaded hard like clay, and because of the short curing time, they must be worked quickly, which requires a high level of skill. The lychee pattern is Japanese in style, and the use of such a Japanese pattern in a Western-style room is notable as an example of the incorporation of Japanese elements in Western-style architecture. In addition to Seikeitei, Japanese-style ceiling centerpieces can also be seen in Heisei's (Imperial Guest House) and the former Residence of Nagayama Takahito, and we thought to have been made by the same person or group of craftsmen. The central decoration on the ceiling of Heisei is colored and powerful with deep shadows, while the former Residence of Nagayama Takahito has a pattern of red and blue. It is noteworthy that Japanese-style ceiling centerpieces requiring such advanced technology were produced in the early Meiji era (1868-1912).



清華亭ゆかりの人々

◆ルイス・ペーラー ルイス・ペーラーは、植物栽培指導のため開拓使に雇われ、1876(明治9)年来札幌しました。開拓使の札幌ブドウ園、果樹園およびホップ園の新設・経営を指導するたから清華亭および豊平館の庭園を設計。日本趣味にも通じており、彼の設計した庭園は和洋両趣味に富んだものでした。ペーラーは庭園のほかにも果樹、蔬菜(そさい)、穀物、工業作物、牧草など農作物全般の指導にあたり、とくに札幌におけるりんごの移植・育成を成功させ、ビールの原料であるホップ栽培にも尽力。1882(明治15)年、退任し横浜へ移りました。



◆内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾 清華亭をはじめとし、借家園内の建物は明治一大正期の北大生の各種懇話会などによく利用されました。札幌農学校第2期生で、生師の親友であった内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾。この世界的にも知られた三人が1881(明治14)年の夏、卒業式を目前にし、この借家園で将来を語り合ったと言われています(出典:「札幌九十年」)。



◆対馬嘉三郎・河野常吉 1897(明治30)年、清華亭は対馬嘉三郎に払い下げられ、さらに所有者がかわるうちに、管理の行き届かぬ時代が続きました。1929(昭和4)年、郷土史研究者として知られる河野常吉は、同志とともに「清華亭保存会」を結成し、これを譲り受け、さらに札幌市に寄付し整備と保存に努力しました。

Kaneshiro Tadamasa and Tsumichiaki Kono In 1897 Seikeitei was sold to Kaneshiro Tadamasa, and with subsequent changes in ownership, the building fell into neglect. In 1929, Tsumichiaki Kono, a well-known local historian, formed the Seikeitei Preservation Society with friends, acquired the building, and donated it to Sapporo City for maintenance and preservation.

◆有島武郎 1908(明治41)年、有島武郎は東北帝国大学農科(現・北海道大学)の教師となりました。その頃、印象主義の美しい絵を描いていた有島を中心として、学生による美術団体「黒百合会」がつけられ、会の名称「黒百合」は、当時大学農場の近くの原生林にこの花がたくさん咲いていたこと由来します。1908(明治41)年、黒百合会第1回展覧会が清華亭で開催され、有島も作品を出展しました。有島は、本道の文芸活動に大いに貢献したことは広く知られていますが、美術活動においても指導的な役割を果たしていたのです。しかもその1回展覧会に清華亭が使用されたことは、この建物の沿革上特筆すべきことです。なお、武郎は1914(大正3)年、札幌を去るまで制作を続け、この会の発展に尽力しました。



※(廊下撤去物) 平面図スタンド看板

※既設置物(サイドボード)は、洋室内へ移設

(15%)



5 偕楽園解説パネル

木軸組アルミ複合版パネル 出力シート貼り仕上げ w1800×h1200×ア35  
上部より吊り下げ取り付け掲出(ピクチャーレール)

パネルの取付け・固定においては、建物本体が市指定有形文化財であることを十分留意した最適な方法によるものとする

札幌最初の公園であり  
産業の試験場だった「偕楽園」。

Kairakuen was Sapporo's first park and an industrial testing ground.



偕楽園

偕楽園は1871(明治4)年、開拓判官・岩村通俊の命によって整備された公園で、一から計画的に造成された札幌最初の公園とされています。園内には、北海道最初の工業試験場ともいえる「製物場」、西洋の農業技術を実地に研修する生徒の寄宿舎である「生徒館」、および「花室(温室)」、博物館などの開拓使による産業の奨励、実験および研究の諸施設が設けられました。また周辺には、西洋農作物の試験栽培場やブドウ園等があり、北部には本道で最初の円形競馬場がありました。偕楽園は単なる公園ではなく、北海道の産業振興に大きな役割を果たしたのです。

**Kairakuen**  
Kairakuen was established in 1871 (Meiji 4) by the order of Michitsugu Iwamura, a pioneering judge, and is said to be the oldest park in Japan that was systematically constructed from scratch. In the park, there is a "manufacturing factory" which can be said to be Hokkaido's first industrial test site, a "student hall" and a "flower room (greenhouse)" which are dormitories for students who are actually training in Western agricultural technology, and a museum. Facilities for industrial promotion, experiment and research were established. In the surrounding area, there are test cultivation fields for western crops and vineyards, and in the north there was the first circular racetrack on the main road. Kairakuen is more than just a park, it played a major role in industrial development in Hokkaido.

施設名	所在地	開園年	備考
生徒館	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製物場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
博物館	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
花室	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
競馬場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
養蚕場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製糖場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製粉場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製油場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製糖工場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製粉工場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎
製油工場	札幌市中央区南一条西五丁目	1871	現・北海道庁本庁舎



博物館

1872(明治5)年、開拓使が物産奨励のため、北海道の動植物や鉱物などを博物館に展示する博物館を設けました。北大博物館の前身であり、博物館には似つかぬ住宅風の建物で、やがて花室とともに隣接の植物園に移されました。

**Museum**  
In 1872 (Meiji 5), the Kairakuen established a museum exhibiting Hokkaido's flora, fauna and minerals to promote local products. The predecessor of the Hokkaido University Museum, it was a residential-style building unsuitable for a museum.



育種場(競馬場)

偕楽園の一部が育種場となり、その場内に円形の競馬場が作られ、1881(明治14)年、明治天皇がここで競馬や馬術を御覧になられました。その後、育種場は札幌農学校の付属農園に併合され、競馬場は中島遊園地(現・中島公園)に移されました。

**Breeding ground (racetrack)**  
A part of Kairakuen was turned into a breeding ground, and a circular racetrack was built on the grounds. After that, the breeding ground was merged with the attached farm of Sapporo Agricultural College, and the racetrack was moved to Nakajima Amusement Park (now Nakajima Park).



鮭卵孵化場

偕楽園内を流れるサクシュコトニ川には、かつて鮭がたくさん上ってきました。1878(明治11)年、お雇い外国人の指導により本道で初めて鮭の孵化実験が行われました。

**hatchery**  
The Sakushukotoni River, which flows through Kairakuen, used to have a lot of salmon. In 1878, a salmon hatchery experiment was conducted under the guidance of a hired foreigner. This is the first attempt on the main road. The first fish hatchery project in Japan was carried out in 1878 in the upstream of the Naka River (now present-day Kamino City, Tohoku Prefecture), so the experiments were carried out around the same time.

The hatchery business here did not produce sufficient results due to the eggs floating to death during transportation, bacterial infections, and damage caused by rats. However, the significance of this pioneering attempt is profound.

製物場

北海道最初の工業試験場ともいえるもので、1878(明治11)年に設置されました。地方の産物を利用したタンポポのエキス、トウモロコシ粉製糖、馬鈴薯製粉などの製造や燐化石の試験など、今ではあまり耳慣れない特殊な試験が行われました。

**factory**  
Established in 1878 (Meiji 11), it should be called Hokkaido's first industrial research station. Special items such as the production of dandelion extract, corn cobb sugar, potato starch, etc. using local products, and the trial production of condensed steam were conducted.



(15%)

※(洋室内撤去物) 偕楽園図・年表パネル(木軸製)、  
棚前ガラスフェンス(木枠+板ガラス)、  
解説展示什器(木軸製)、  
偕楽園ジオラマ模型および展示台(木軸製)

※壁棚内(現状偕楽園図・年表パネル)を撤去、新規解説パネル設置  
既存撤去後の壁穴は要修復

## 清華亭 扁額の由来

1880(明治13)年、偕樂園内につくられた建物に開拓長官・黒田清隆が『水木清華亭』と名付け扁額に揮毫したが、紛失により1897(明治30)年の夏頃に金洞山之恭によって新たに書かれたものと考えられる。

### 【漢文の内容】

以前、黒田開拓長官が自ら札に清華亭の三文字を書いた。数年後、好事家(物好きな人)に奪い去られたと今に伝えられている。1897(明治30)年夏、私(金洞山之恭)が数日この地に滞在した時、亭主(当時の所有者)から改めて札を掲げたいので書いてほしいと頼まれたため、断る事ができず書いた。

### Seikatei: Origin of the flat plaque

In 1880, Kiyotaka Kuroda, then magistrate of the Hokkaido Development Commission, gave the name Mizuki-Seikatei (Dogwood-Pure Flower Pavilion) to the building in Kairakuen and wrote this name on a flat plaque. However, the plaque was subsequently lost and it is believed that Yukiyasu Kindosan inscribed a new plaque in the summer of 1897.

### Contents of the Japanese characters

The three characters of the name Seikatei had previously been written on a flat plaque by Kiyotaka Kuroda (magistrate of the Hokkaido Development Commission) himself. It is now believed that it was stolen by a hobbyist a few years later. "In the summer of 1897, when I (Yukiyasu Kindosan) stayed here for a few days, the owner of Seikatei asked me to inscribe the characters on a flat plaque to be hung again. I could not refuse and inscribed it."

**金井之恭** (かない ゆきやす) [1833(天保4)年～1907(明治40)年]

明治書壇有数の大家で号は金洞(きんどう)。明治期の官僚、書家、貴族院勅選議員。日本書道会・書道奨励会の会長を歴任。全国に150基以上の石碑を残している。

**Yukiyasu Kanai** (a.k.a. Kindosan) [1833-1907]

One of the most prominent calligraphers of the Meiji era (1868-1912). He was a bureaucrat, calligrapher, and Imperial appointee to the House of Peers during the Meiji era. He served as President of the Japan Calligraphers' Association and the Society for the Promotion of Calligraphy. He inscribed over 150 stone monuments throughout Japan.

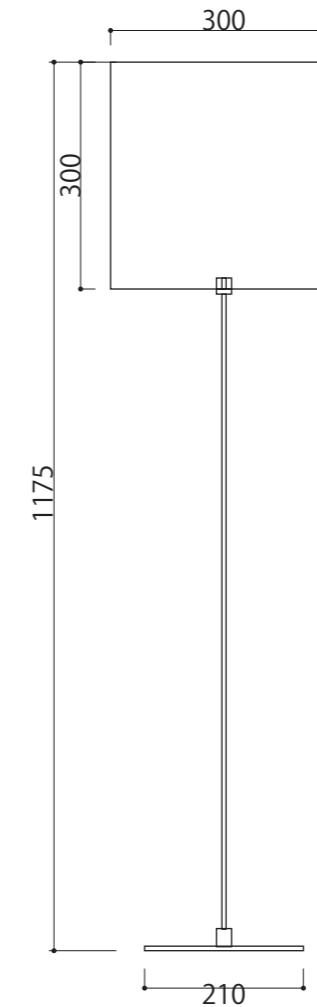
(50%)

タイトル  
ヒラギノ角ゴw6 32P

本文  
ヒラギノ角ゴw6 20P

翻訳文  
HelveticaR 14P

本文  
ヒラギノ角ゴw6 16P



スタンド足(既成)黒  
アルモード 2703

外寸法(mm) :w210×h1025×d210

重量(kg) :2.4

品番:2703

カラー:K(ブラック)

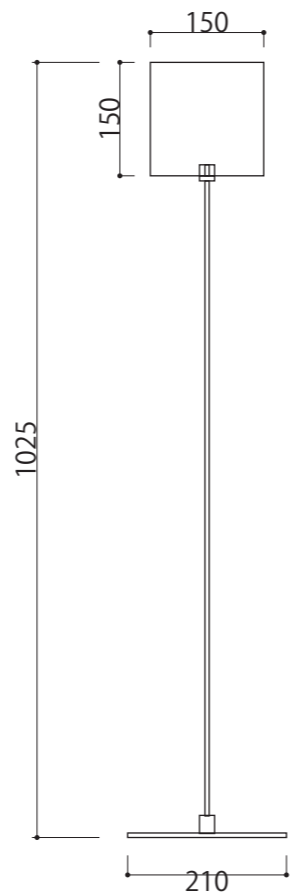
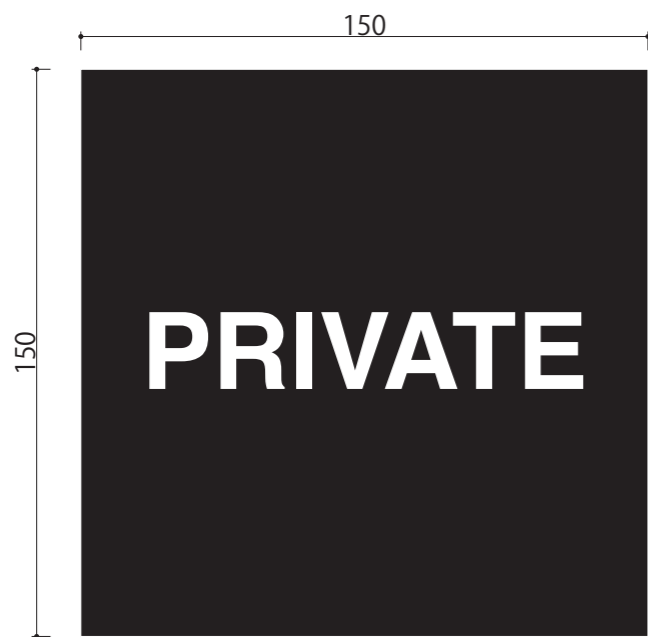
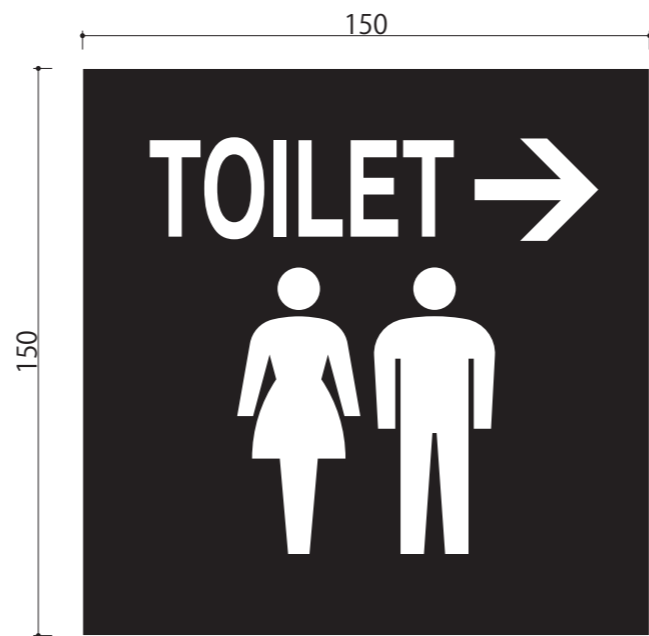
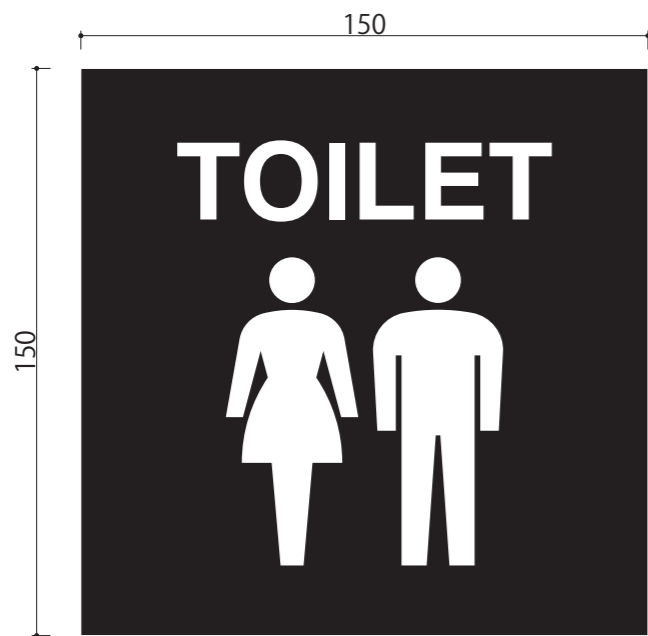
- ・ポール:スチール塗装仕上
  - ・ベース:スチール塗装仕上
- 組立式

設置イメージ



7 案内サイン(トイレ pictサイン)

面板:アルミ複合板出カシート貼



スタンド足(既成)黒  
アルモード 2703

外寸法(mm) :w210×h1025×d210

重量(kg) :2.4

品番:2703

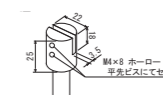
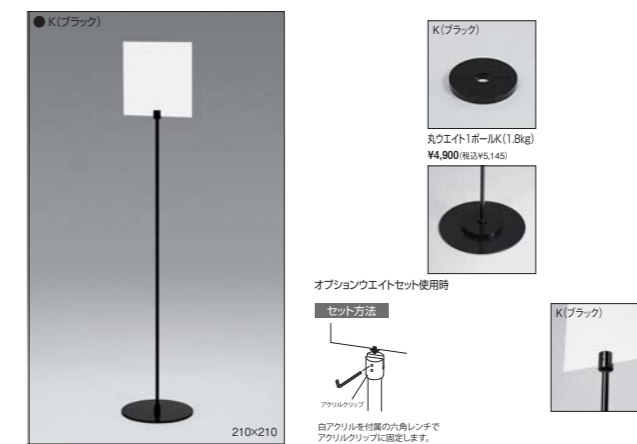
カラー:K(ブラック)

- ・ポール:スチール塗装仕上
  - ・ベース:スチール塗装仕上
- 組立式

(廊下)トイレ誘導



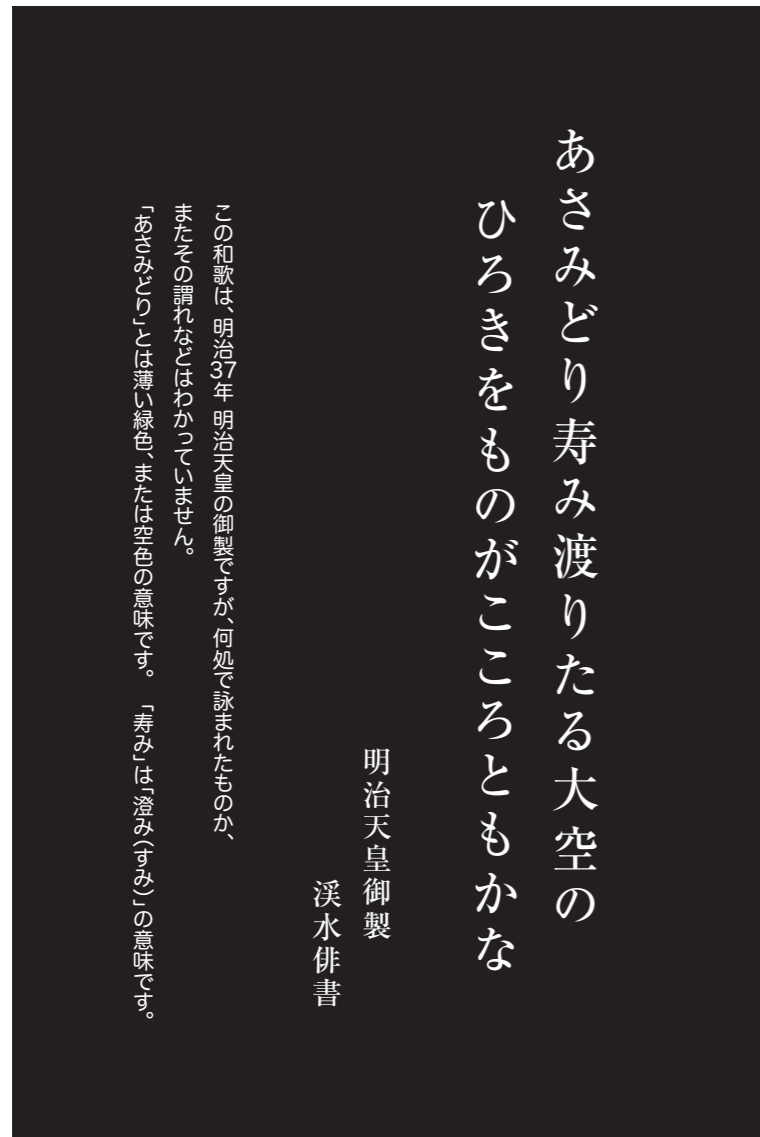
(トイレ内)ピクトサイン



## 8 軸解説・作品銘板

## ①軸 解説

アクリル(黒) 3t 曲げ加工 表示部出力シート貼  
w200×h300



(50%)

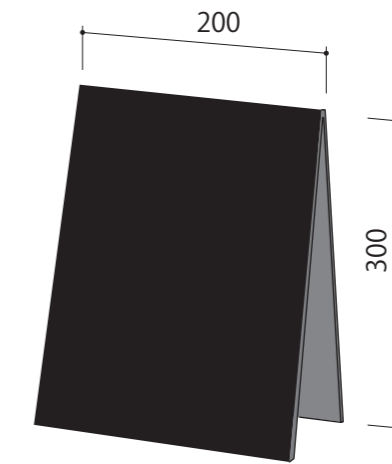
## ②作品「ムプサムメモ」 銘板

アクリル(黒) 3t 曲げ加工 表示部出力シート貼  
w90×h65



(原寸)

※作品の展示は、移設後のサイドボード内に展示予定



Project

清華亭

Title

8. 各種サイン

Scale (A3)

1/2, 1/1

Date

2023.5.10

Director

Number

9

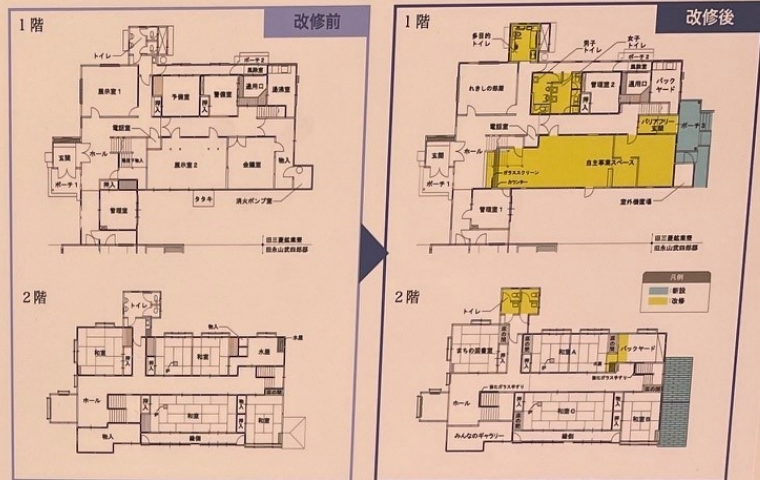
# 工事記録：説明パネル作成イメージ

きゅう みつ びし こう ぎょうりょう  
旧三菱鉱業寮

たい しん ほ ぞん しゅうり  
耐震・保存修理工事記録

## 工事の目的と概要

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮の耐震・保存活用工事では、両施設を貴重な歴史的資産として後世に引き継いでいくとともに、新たな歴史文化観光スポットとしての魅力を向上させ、集客施設としていくことを目指し、平成29年度に耐震補強のほか保存修理及び活用整備工事を行いました。



出典：北電総合設計株式会社

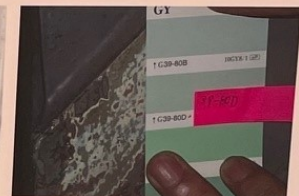
## 工事で明らかになった旧三菱鉱業寮の特徴

### 創建時の外壁色に復原

改修前は茶で塗られていた板張り、建具、窓枠などのペンキを削ると、下の層に若草色が現れました。色見本帳を照らして創建時の使用色を確認し、保存修理工事を機に外壁を若草色に塗り替えました。



塗装面研磨による塗装履歴の確認



塗装断面より創建時の塗装を確認(若草色)

### 「地産地消」がうかがえる伝統的建築技法

当時の資材の調達事情から、地元で入手できる自然素材を用いた伝統的な建築技法が用いられていました。

#### ▶ 土壁の下地

旧三菱鉱業寮の間仕切壁は漆喰壁が採用されています。通常、漆喰壁下の土壁の下地には、細竹を縦横に編む竹小舞が使用されますが、竹の少ない「地元」で調達できる葦(5本前後の葦材を束ねて)が細竹の代わりに使われていることが分かりました。

#### ▶ 地元で作られた煉瓦の再利用

旧三菱鉱業寮には煉瓦造の煙突が設けられています。道内で多く使われていた「にしはち(2寸×4寸×8寸)」寸法、「手抜き成形※1」、解体しやすい「貧調合の積モルタル」等の特徴から、札幌市景観重要建造物に指定されている「八紘学園」と同様に、札幌産の煉瓦を利用していることがうかがえます。

※1：機械ではなく手で煉瓦を作る工法。



和室漆喰壁撤去の様子



下塗土壁の下地「葦」で組まれた小舞



煙突内部



煉瓦の規格は112mm×233mm×55mm

出典：ムトウ建設工業株式会社/有限会社古田工業

## 耐震補強設計の実施

### 基礎の補強

既存基礎を残しながら、鉄筋コンクリート基礎を内側に増設し、基礎の補強を行いました。

### 耐力壁の増設

土壁を撤去し、構造用合板の釘打ち部にポリエステル繊維を用いた高強度耐力壁に入れ替えました。



施工前の漆喰壁



耐震壁木下地組み



高強度耐力壁の釘打ち



既存基礎に増設用基礎配筋の様子 鉄筋コンクリート敷設



既存基礎に増設用基礎配筋の様子 鉄筋コンクリート敷設

### 耐震補強用下地材「修補」の記録化

耐震化に用いた下地材には、「平成29年 修補」と焼印し、今回の工事の記録化と後世の復原検討に備えました。



焼印を押す様子



1階新設床材に押された焼印



新設下見板材に押された焼印

出典：ムトウ建設工業株式会社



すのこ寸法検討 参考資料

